

まえがき

草壁焰太

私はいままで四冊の五行歌集を出しているが、入門書や編歌集などの出版に感
けて、歌集の出版はいつも遅れがちであった。本来は、五冊目の歌集を出してもい
い時期であるが、今回、選歌集としたのは、最初の頃の歌集を五行歌人たちがあま
り読んでいないということに理由があった。

読まずにいろいろ言うのは困る。そこで選歌集を出す必要を感じていた。

こういうときに、こもろ歌会の遊子氏が、私の色紙を人に薦めるのに、簡単な六
十首程度の選歌集を作られたのを見た。こういう熱心な方に歌を選んでいただけ
ばいいと思い、頼むと同時に刊行も早めることにした。

五行歌は今後、多くの方々に歌集、論集の出版を勧めていかななくてはならないが、こういう選歌集を編んでもらうのも、本の書き手を作る端緒としてなかなかいいと思っただ。

最初、私は二百首程度の選歌集を考えていたが、それでは少なすぎると思い始め、四百首に、ついには六百首程度にして、一ページ四首組みとすることにした。そうすれば、無理に削ることもない。

一月十五日、遊子さんに事務所へきてもらい、相当数増やして、歌集を作ることになった。私自身も追加したい歌を五十ほど選んだ。

それでも、当初、遊子さんの作った章分けはできるだけ壊さないようにした。

「詩業」「若者」「私の奥さん」「五行歌」などは、私が選んでいたら、できなかった章であろう。概して、私の人生がわかりやすいものになった。

「五行歌」や「古典」の章は、遊子さんが予定していた前半より、かなり後半部に収容することにした。それから「恋」の章を作った。こうして、歌集は二十八章五七七首となり、満足いくものとなった。

全体にざわーっと立ち上がるような歌集となったと思う。最近、いろいろな方々

の歌集を作ると、そのざわーっと立つような、要素の多いものが多い。選歌集も、そういうものになったと思われた。

遊子さんには、昨年の五行歌全国大会から続いて、選歌集作りに励んでいただいた。今後も多くの方と、こういうスタイルで新著を出して行きたいと思う。

書名となった「人を抱く青」は昨年北海道の洞爺湖の山上を通ったときに書いた歌から取った。私にとって、最も嬉しかった旅の歌である。

二〇一五年一月三十日